

富山市ガラスの街づくりプラン



ガラスの街とやま

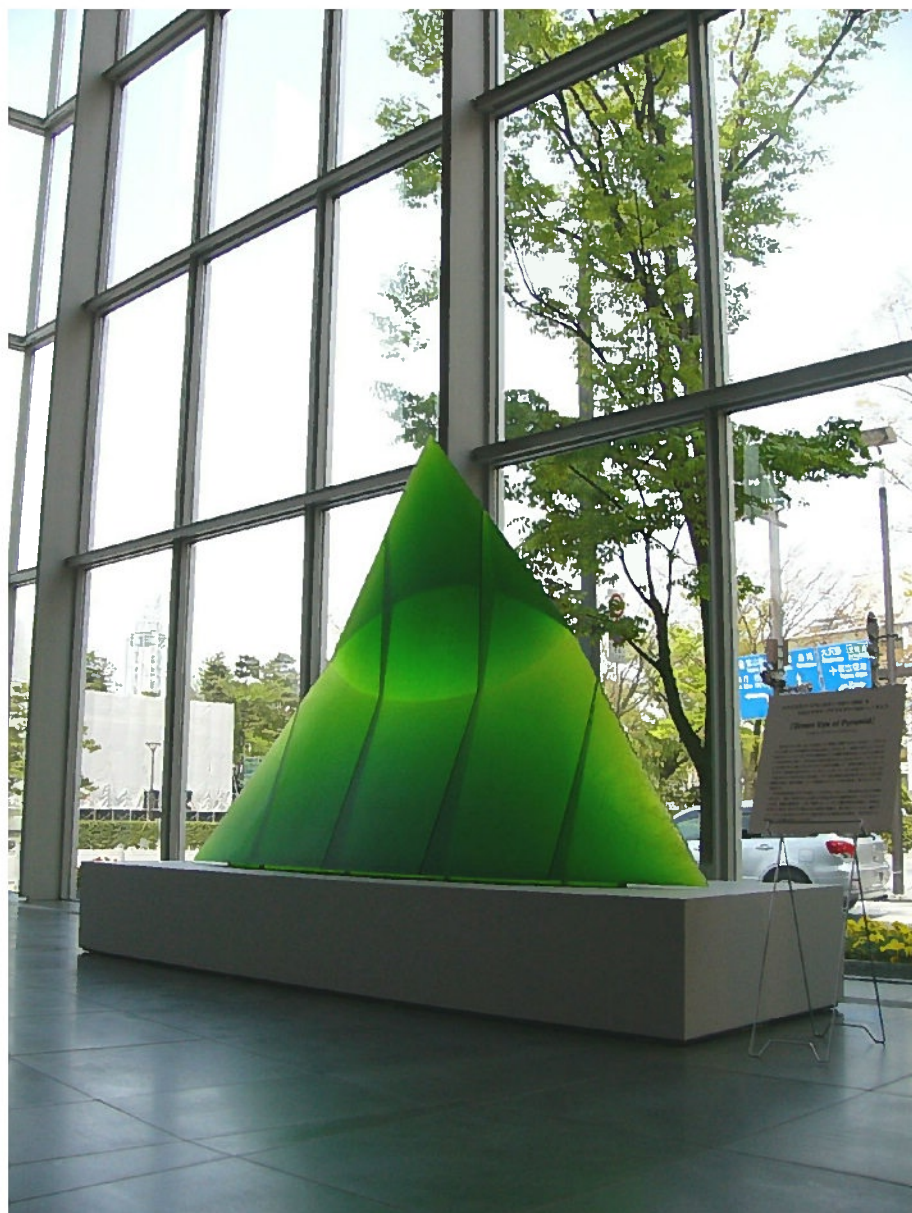
平成21年3月

富山市

富山市ガラスの街づくりプラン INDEX

I	ガラスをテーマとした街づくりについて	
1	策定にあたって	1
2	ガラスの街づくりがもたらす富山市の未来像	2
II	「ガラスの里」の整備推進について	
1	経緯と現状	4
2	「ガラスの里」の発展のために	9
3	新たに必要な施設及び組織	11
4	整備計画	14
III	ガラス美術館の整備推進について	
1	基本的役割	16
2	基本方針	16
3	活動内容	18
4	設置場所	19
5	設計コンセプト	19
6	施設内容・機能等	20
IV	ストリートミュージアムの整備推進について	
1	経緯と現状	22
2	整備方針	23
V	組織・運営について	
1	運営	24
2	産業化の推進	24
	おわりに	26

I ガラスをテーマとした 街づくりについて



I ガラスをテーマとした街づくりについて

1 策定にあたって

富山市は、ここ20年来、ガラス工芸を対象とした施策をまちづくりのひとつの柱として、様々な取り組みを行ってきた。

昭和60年の一般市民を対象とした「富山市民大学ガラス工芸コース」の開設を皮切りに、平成3年に全国で唯一の公立のガラス作家養成専門機関として「富山ガラス造形研究所」を設立、平成6年にはガラスの産業化とガラス作家の独立を支援する「富山ガラス工房」を開設した。

こうした施策の一層の発展を期して、平成10年3月にはガラス関係施設が集まる古沢・西金屋地内を対象とした「ガラスの里基本構想」を策定した。これをもとにガラス造形研究所やガラス工房の拡充等を図るとともに、中心市街地のストリートミュージアムやトヤマガラスアートギャラリーの整備、さらにガラスをテーマとした展覧会や各種イベントの開催など多岐にわたる事業を展開してきた。

これらの事業により、多くの市民がガラス工芸に親しむ素地が次第に出来上がる一方で、ガラス造形研究所の卒業生やガラス工房の作家、県内在住のガラス作家等の国内外での目覚ましい活躍などもあって、富山のガラスは全国的にも知名度を高めていった。

平成17年4月の7市町村の合併により、新富山市が誕生する一方、人口減少、少子・超高齢社会の到来、高度情報化や地方分権の進展など、地方行政は大きな変革期を迎えており、これに対応するため、市では総合計画をはじめとする様々なビジョンを示している。

このような中で、「ガラスの里基本構想」や平成13年3月に策定した「ガラス美術館基本構想」については、それらのビジョンと整合を図りつつ一本化し、ガラスのまちづくりを総合的に推進する「富山市ガラスの街づくりプラン」として再構築することとした。

再構築にあたっては、中心市街地でのガラス美術館設置を念頭に置き、ガラスの里では、需要が年々増加している工房機能の拡充や人材定着を促進するための環境の整備などを中心に検討を加えた。

今後、このプランに示している各施策を適宜実施することにより、「ガラスの街とやま」の名に相応しいまちづくりを推進するものである。

2 ガラスの街づくりがもたらす富山市の未来像

ガラスの街づくりの実現により、富山市は世界レベルのガラスアートがまちなかに溢れ、ガラス作家の集い住む、芸術文化の薫り高い都市となる。

まちなかには、ガラス美術館を中心として、独創的で美しい作家オリジナルのガラス作品を扱うギャラリーやクラフトショップが軒を連ね、ストリートミュージアムに飾られた美しいガラスアートが、芸術性の高い都市景観を創り出す。都市に浸透したガラス作品は、人々をまちなかに呼び寄せ、地域を活性化していく。

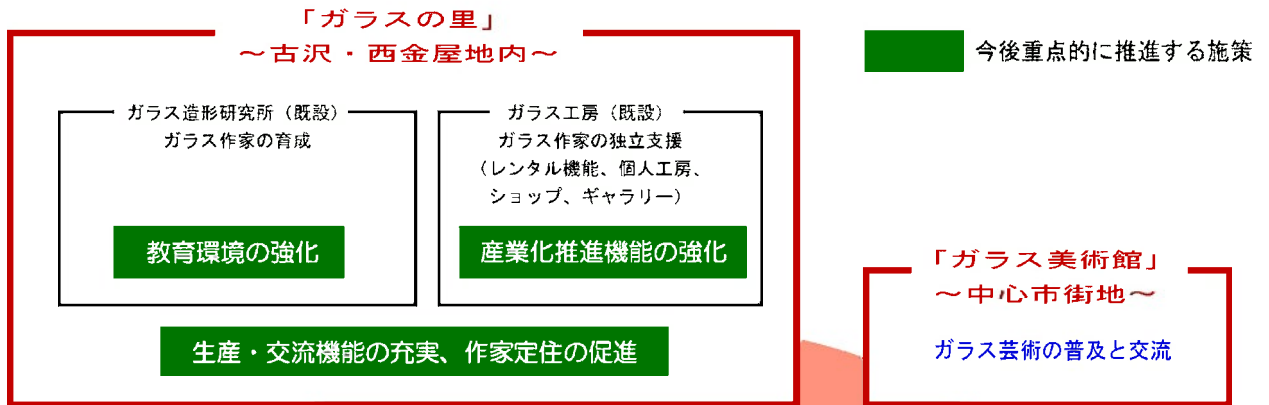
一方、自然豊かな呉羽丘陵にある「ガラスの里」には、ガラス造形研究所やガラス工房以外にも、多くの個人工房やアトリエ、共同の新工房が建ち並び、まちなかにガラス文化の苗を供給する「ファーム」としての役割を果たしている。この地域で生み出された付加価値の高い多種多様なガラス作品は国内をはじめ世界中に届けられる。それを支える若手作家の育成や独立支援も行なわれ、「ガラスの里」は常に若い才能と活気に溢れた地域となる。一般市民は、ガラス制作体験やワークショップ^{*}に参加することで、創造の楽しみやプロ作家のエネルギーを感じることができる。ガラスの専門家は、世界レベルの技術や研究、最新の情報に接することができ、技術・学術面での人的交流も活発化する。

富山市民の生活は、作家オリジナルの美しいガラス作品によって豊かに演出される。作家と市民との交流機会も増え、作り手との心の交流は、モノの大切さや創作の面白さを教えてくれる。このような日々の生活の中で、ガラスに彩られた「富山のライフスタイル」が生まれ、地域文化や自然風土と共鳴しあい、他都市には見られない独自性のある芸術文化が育まれる。

世界レベルのガラス作家が地域性豊かな作品を作り出し、市民がガラスと共に幸福な生活を送る「ガラスの街とやま」には、県外や国外から多くの観光客やアートビジネスに関わる人々が訪れるようになる。ガラスを中心とした人的交流やビジネス交流は、やがて地域を活性化し、富山市は、芸術文化の薫り高い都市として、世界的な知名度を獲得することになる。

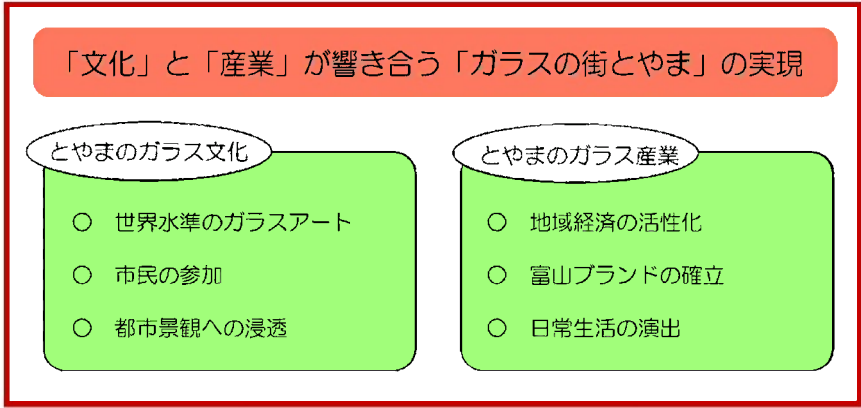
* ワークショップ

本来は「作業場」や「工房」を意味する語であるが、ここでは「体験型講座」のこと。



**ガラスをテーマとした芸術文化の振興
・新たな産業分野の開拓**

- 「ガラス関連事業」**
- ストリートミュージアム（中心市街地の歩道・公園などでの作品展示）
 - 展覧会（公募展や各種企画展の実施）
 - 富山市民大学ガラス工芸コース（市民を対象としたガラス工芸教室）



市民の豊かさの向上

Ⅱ 「ガラスの里」の 整備推進について



Ⅱ 「ガラスの里」の整備推進について

1 経緯と現状

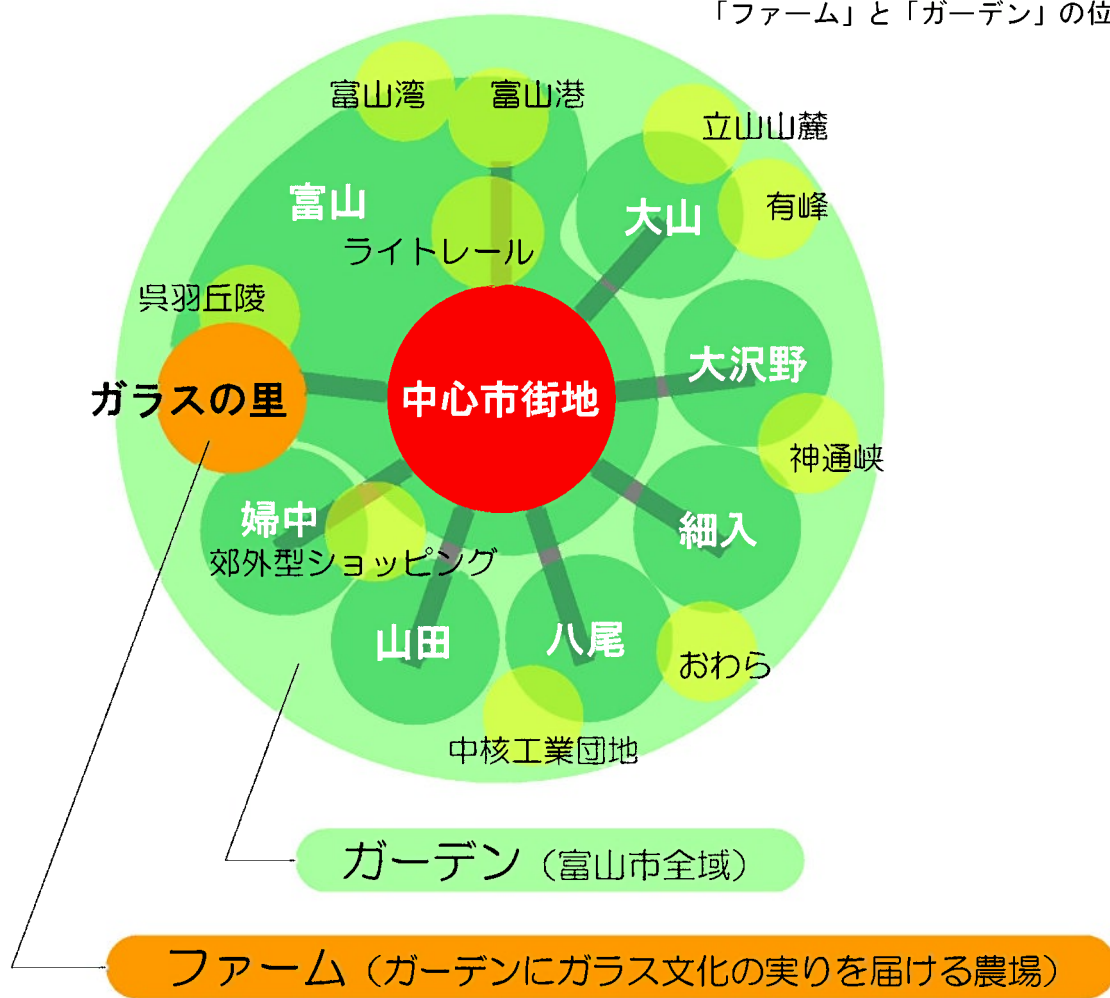
(1) これまでの経緯

昭和63年、富山中央部丘陵の夢構想調査報告書に、呉羽丘陵を中心に新たなレクリエーション空間を創出する案のひとつとして、初めて「ガラスの里」のイメージが記載された。これを受けて、呉羽丘陵西側（古沢・西金屋地内）に富山ガラス造形研究所（H3開校）、富山ガラス工房（H6開設）を整備し、人材育成や産業化推進などの視点からガラスの街づくりを進めてきた。

平成10年3月には「ガラスの里基本構想」を策定し、ガラスの街づくりを推進する施設が立地するこの地域を、果実や苗を供給する「ファーム」に見立て、それらを楽しみ、ガラスの文化が咲き誇る富山市全体の都市像を「ガーデン」と位置づけた。

平成16年10月には、ガラス工房内に設備レンタル機能を備えた「創作工房」を増築すると同時に、ショップ・ギャラリー機能を拡充した。作家への独立支援の強化や制作体験による市民への啓発普及など、「ガラスの里」としての機能拡充を図りながら、現在に至っている。

「ファーム」と「ガーデン」の位置づけ



(2) 地域の名称

「ガラスの里」という名称は、既に県外の他の地域に使用されていることなどから、今後はこの地域にふさわしい名称をあらためて検討していく必要がある。

(3) 地理的範囲

「ガラスの里」の地理的範囲は、おおむね現在のガラス関連施設を設置している地域、すなわち呉羽丘陵西側、富山市古沢・西金屋地内とするのが妥当である。

(4) 構成施設

現在、「ガラスの里」には2つの施設があり、ガラスの街づくりを推進するための様々な機能が集積している。

ア 富山ガラス造形研究所（富山市西金屋 80）

平成3年4月に開校した、全国で唯一の公立のガラス専門教育機関。充実した設備と一流の講師陣のもと、富山のガラス文化を担う優れた作家の育成に取り組んでいる。



開校年月	平成3年4月	設置学科	造形科2年 研究科2年
敷地面積 建築面積	19,639.68 m ² 2,724.74 m ²	入学定員	造形科16人 研究科4人
教育目標	ガラス造形に関する専門的知識及び技術の学習により ガラス造形制作者として有能な人材を育成する。		

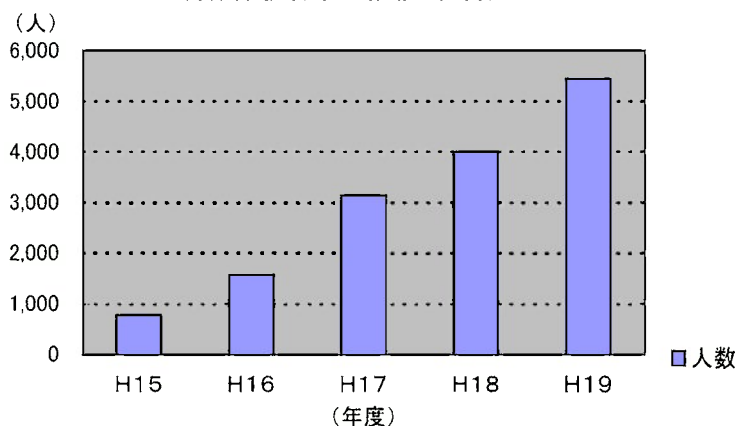
イ 富山ガラス工房（富山市古沢 152）

ガラスが富山市の新たな産業となるための拠点施設として、平成6年にオープン。平成16年に、設備レンタルによって作家の創作活動を支援し、同時に一般市民が制作体験を行なうための「創作工房」の新設や、ショップ、ギャラリースペースの拡充などが行なわれている。

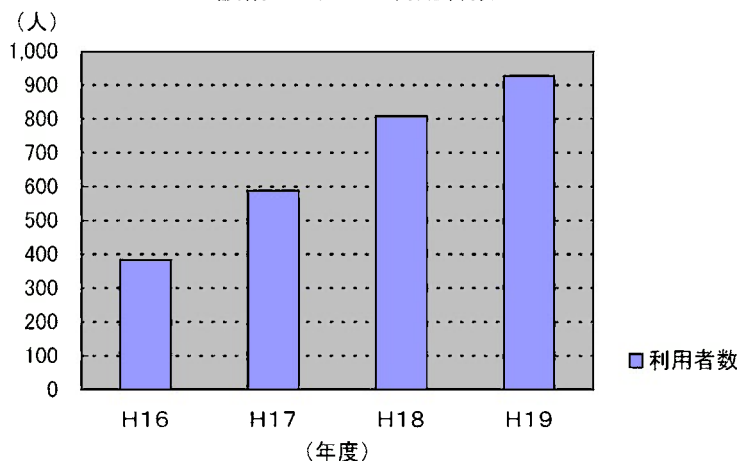


開設年月	平成6年4月	管理運営	(財)富山市ガラス工芸センター
敷地面積	5,004.00 m ²		
建築面積	1,491.57 m ²		
施設	(1) 制作工房 ア 共同工房 イ 創作工房 ウ 個人工房 (2) 展示コーナー（ショップ） (3) 見学コーナー（ギャラリー）		
設置目的	ガラス工芸を担う人材の育成及び自立の支援並びにガラス工芸に関する知識の普及啓発を図ることで、富山市のガラス工芸産業の振興に貢献する。		

制作体験者数の推移(有料分)



設備レンタルの利用者数



※ 平成16年度は12ヶ月換算（10月オープンのため）

(5) 基本的役割

(ア) 人材の育成

ガラス造形研究所

ガラス工房

ガラス造形研究所は、優れた講師陣による指導のもと、高い専門技術を身につけた卒業生を数多く輩出し、世界的にも高い評価を得ている。

また、ガラス工房では、研究所の卒業生を一部受け入れながら、商品制作や販路開拓の手法など、作家として独立するためのノウハウを指導し個人作家の養成に努めている。

(イ) 産業化の推進

ガラス工房

産業化の役割を担うガラス工房では、開所以来、プロの作家ならではの付加価値の高いガラス商品を県内外に販売し、一定の成果を上げている。また、異業種交流や都市空間へのガラスモニュメント導入などを通じて、ガラス素材の新たな活用分野を開拓すると同時に、「越翡翠硝子」や「越碧硝子」といった新素材を開発し、新たな地域ブランドの創出にも取り組んでいる。

(ウ) 作家への独立・定着支援

ガラス工房

育成した人材を富山に定着させ、人的基盤を安定させるためには、作家が創作活動によって生計を立て、自立することが重要だが、他の工芸分野に比べ、ガラス工芸では工房敷地の確保や設備投資など多額の資金を要するのが現状である。そのため「ガラスの里」には、特に若手のガラス作家への独立・定着支援が役割として求められる。

ガラス工房では、平成9年に「個人工房」を設置し、土地と建物を作家に貸出すことで、作家への独立・定着支援を行なっている。また、平成16年に増築された「創作工房」では、設備の貸出しを行なうことで、工房開設の資金を持たないガラス作家の創作活動を支援している。また、デパートを中心とした各種の展示販売会への出品を促すことで、若手作家の販路拡大に繋がる機会も提供している。

(エ) 人的交流の促進

ガラス造形研究所

ガラス工房

ガラス造形研究所では、平成12年にオーストラリアのキャンベラ・スクール・オブ・アート^{*}と交換留学制度を締結し、教育面での人的交流促進に努めている。また、毎年海外から著名な作家を招いてワークショップを開催しており、国際的な交流を通じて学生の資質向上を図っている。

ガラス工房では、既存の伝統産業との合同プロジェクトや大学の研究機関との共同研究を推進するなど、幅広い分野との交流を通じて富山のガラス工芸の浸透に努めている。

(オ) 市民・観光客への啓発普及

ガラス造形研究所

ガラス工房

ガラス造形研究所では、公開講座やワークショップ、学内展などを通して、教育機関としての活動を広く紹介するとともに、より多くの市民がガラスの魅力に触れる機会を提供している。

ガラス工房では、平成16年に増築した「創作工房」を中心に、市民向けの制作講座や体験イベントを実施している。また、県内の小中高生を対象にガラスをテーマとした校外学習の機会も提供しており、幅広い年齢層への啓発普及に努めている。

* キャンベラ・スクール・オブ・アート

オーストラリアの国立美術大学。美術系の総合大学として、ガラス以外にも絵画、彫刻、陶芸、写真などの学科が設置されている。高い教育レベルに加えて交換留学生制度などの国際交流プログラムも充実しており、日本からの留学生も多い。

2 「ガラスの里」の発展のために

(1) 作家定住施設の整備

ガラスの里全体

富山のガラス工芸が地域に根ざした文化、あるいは産業として発展していくには、第一に作品を生み出す作家が数多く富山に定住する必要がある。

今後は、ガラス工芸の中心拠点としての発展が期待される「ガラスの里」を中心に作家が定住することで「ガラスの里」の求心性が高まり、富山のガラス工芸の基盤強化が図られる。

→ 宿舎 (11 頁)

→ 作家定住用用地・住宅 (12 頁)

(2) 作家への独立・定着支援機能の強化

ガラス工房

ガラス工房が平成16年に新設した「創作工房」では、作家への独立・定着支援の観点から制作設備の貸出しを行っており、県内外の多くの作家が利用している。

「ガラスの里」が持つ設備レンタル機能は、特に独立工房開設の資金を持たないガラス作家にとって重要な機能であり、この機能が十分に発揮されないと、県内での定住を希望する若手作家の数や、県外からの移住を希望する若手作家の数が減少してしまう。そこで、従来の設備レンタルサービスを中心に作家への独立・定着支援機能をさらに強化する必要がある。

→ 新工房 (11 頁)

(3) 教育環境の向上

研究所

平成3年に開校したガラス造形研究所は、全国で唯一の公立のガラス専門教育機関として、これまでもすぐれた学生を多く輩出し、国内外で高い評価を得ている。こうしたガラス造形研究所の高い教育レベルを維持し、今後さらに発展させていくために、

- ア 不足している研究科の吹き場^{*1}と制作スペースの確保
- イ 質の高い作品を制作するために必要な、光の効果を検証する照明教育用ギャラリー
- ウ ガラス工芸の調査・研究のための情報ライブラリー

などを早期に整備する必要がある。

また、全国各地の芸術系大学にガラスコースが設立され始めた近年の状況を踏まえ、それらの教育機関に勝る魅力を付加するためにも、学生が制作に専念できる環境を備えた宿舎や、ワークショップ、公開講座などに招聘する講師などが一定期間滞在できるアーティスト・イン・レジデンス^{*2}についても、整備することが望ましい。

*1 吹き場

パイプに高温で溶けたガラスを巻き取り、息を吹き込んで成形する技法を「吹きガラス」もしくは「宙吹き」と呼ぶ。「吹き場」はそのための作業スペースで、設備として通常は、ガラスを溶かしておく「溶解炉」、成形中のガラスの温度をキープする「グローリーホール」、成形後のガラスを冷ます「徐冷炉」、作家が座って作業するための「ベンチ」などを備えている。

*2 アーティスト・イン・レジデンス

芸術家に一定期間、特定の場所に滞在し、そこで創作活動に専念することのできる環境を提供するプログラムの総称、もしくはそのための施設。ここでは主に滞在作家のための宿泊施設を指す。

これらの取り組みにより、学生の資質向上や、近年減少傾向にある志願者数の増加を図るとともに、志願者などからの要望や、今後どのような人材が社会から求められるのかなどを見極めながら、定員の増加や教育課程の再編などについても適宜検討する。

- 宿舎 (11 頁)
- 新工房 (11 頁)

(4) 産業化推進機能の強化

ガラス工房

将来的に県外からも多くのガラス作家が富山に定住するためには、ガラス工芸の産業化をこれまで以上に推進していかなければならない。そのためには、産業化の基礎となる新素材や新商品を開発するための環境を、早急に整備する必要がある。併せて、拡大する産業化事業を専門に管理し、推進していくための組織づくりも重要である。

また、ガラス関係者からの需要が見込まれる、ガラス関連機材や材料を販売するショップがあることも、新たな産業化の要素として考えられる。

- 新工房 (11 頁)
- 産業化推進部門 (12 頁)
- ガラス材料センター (12 頁)

(5) トータル管理機能の整備

ガラスの里全体

今後、「ガラスの里」の機能が拡充され、様々な専門施設や機能が複合的に集積するようになると、それらを一元管理するための機能が必要となる。そのための人員の確保や、管理室の整備などが将来的な課題であるが、特に、大量のガラス作品を保管・管理するためのスペースは現状で既に不足し始めていることから、比較的早期に整備する必要がある。

- 合同倉庫 (11 頁)

(6) 賑わいの創出

ガラスの里全体

多くの作家や市民が「ガラスの里」に集い交流し、地域としての賑わいや活力を創出することは、「ガラスの里」の求心性を高めることに繋がる。そのためには「ガラスの里」を訪れる人々が憩いや潤いを実感できるような施設が整備されることが望ましい。

また、今後はファミリーパークと連携した「ものづくり」と「自然」を体験できる「里山エリア」としての視点も必要と考えられる。

- レストラン・カフェ (12 頁)

3 新たに必要な施設及び組織

前項で述べた基本的な整備方針を踏まえ、将来的に次に掲げる施設及び組織を整備する。
なお、施設の（１）、（４）、（５）、（６）については民間主導による整備を原則とする。

【 施設 】

（１） 宿舎

人材育成 独立支援

ガラス造形研究所の学生や県内のガラス作家が利用する宿舎。国内外の作家が、滞在しながら創作活動を行なうためのアーティスト・イン・レジデンスとしても活用する。

ガラス作家の制作場所などを兼ね備えた仕様とし、利用者のニーズに合わせて、ワンルームタイプ、メゾネットタイプ^{*}など、様々な形態のものが考えられる。

また、ガラス作品などを収納でき物置、アトリエ、駐車場なども宿舎の周囲に整備し、県外からも多数の入居者を呼び込めるような、ガラス作家にとって魅力ある施設となるよう、入居希望者の要望に沿って整備されることが望ましい。

（２） 新工房

人材育成 産業化 独立支援

今後さらに利用が増加すると考えられる作家への設備レンタル機能を強化し、さらに本格的な産業化に向けた新素材や新商品を開発するための新工房。

新工房内には、ガラス造形研究所の研究科のための吹き場や制作室、照明教育用ギャラリーなどを併設し、教育環境の向上も併せて行なう。

また、将来的には、建築分野など今後需要が見込まれる分野にも対応したガラス商品やモニュメント、手作り商品としての付加価値は保ちながら比較的安価な商品を安定的に生産するための工房なども、必要に応じて整備していく必要がある。

なお、作家への設備レンタル機能が新工房にシフトすることで、既存の「創作工房」を中心に体験機能の拡充も期待できる。

（３） 合同倉庫

その他（トータル管理）

ガラス造形研究所、ガラス工房で所管する作品や商品を管理・保管するための合同倉庫。

また、市収蔵のガラス作品の保管スペースが近い将来飽和状態となることが予想されることから、市収蔵ガラス作品の保管スペースとしても活用する。

* メゾネット

1層の住戸であるフラット（flat）に対して、2層以上で1住戸を構成するタイプの住宅のこと。
2階建ての一戸建てのように室内に上下階へ行く階段がある。

(4) 作家定住用用地・住宅

産業化

独立支援

「ガラスの里」内に定住して制作活動を行なう作家のための作業所付住宅。将来的には個々の作家がそれぞれのニーズに合った仕様の住宅を建設することになるが、そのための用地確保の手法などから検討する。

(5) ガラス材料センター

産業化

ガラス造形研究所、ガラス工房、個人作家、愛好家などが利用できるガラス関連機材、材料の専門ショップ。利用者のニーズに応える多種多様な機材や原料を取り揃え、将来的にはインターネット等を活用した幅広い販売展開が望まれる。

(6) レストラン・カフェ

その他(販わい創出)

「ガラスの里」の求心性を高め、憩いと潤いの場としての価値向上に寄与する施設。ファミリーパークなど周辺施設との連携も含めた「里山エリア」としての視点から整備されることで、利用者の滞在時間アップや販わい創出の効果が期待される。

【 組織及び事業 】

(1) 産業化推進部門

産業化

富山のガラス工芸品のブランド展開をソフト面から支える組織。専門家の指導、助言のもとに作家へのビジネス支援、市場拡大、販売ネットワーク構築を担当する。

(2) アーティスト・イン・レジデンス

人材育成

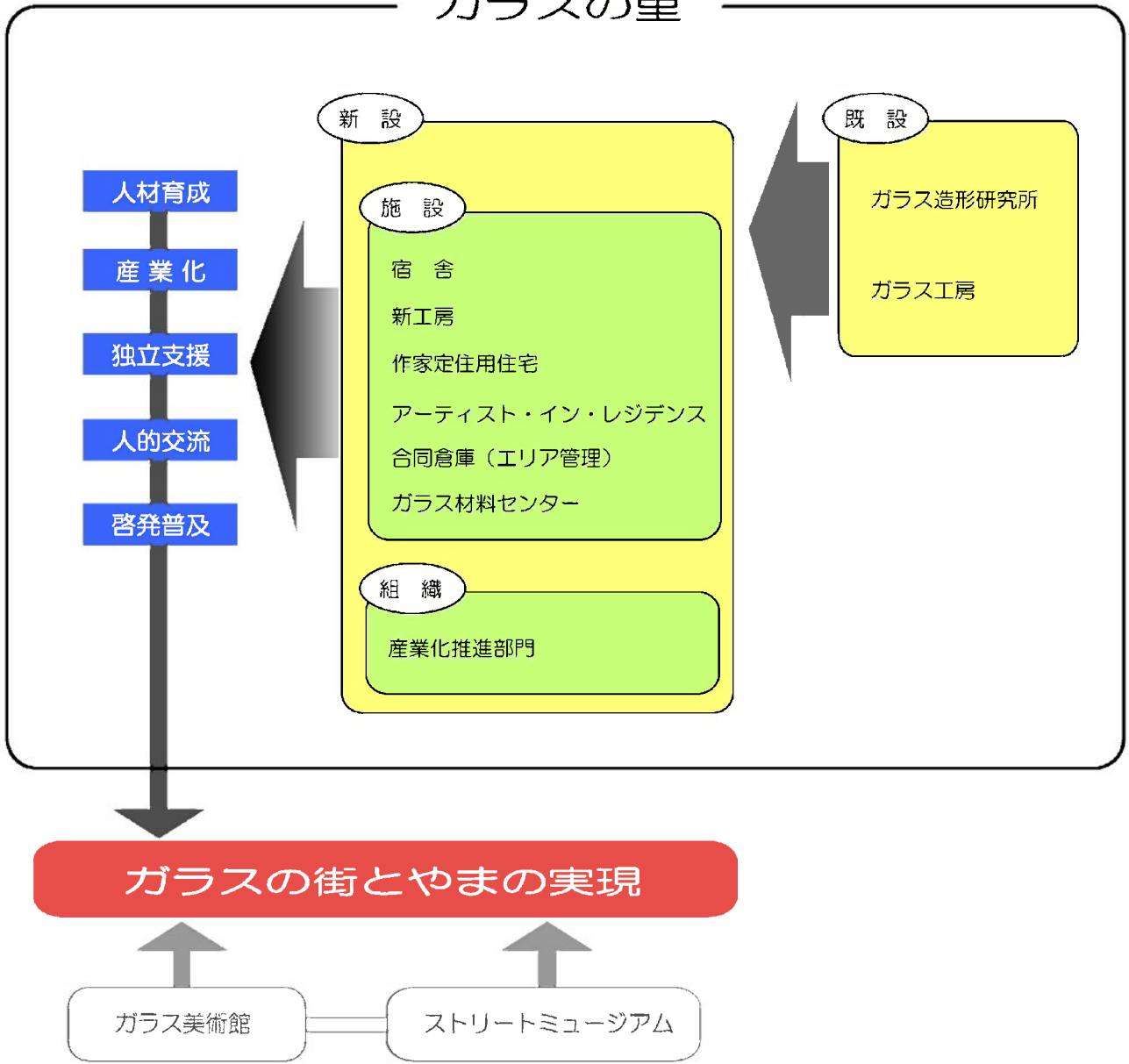
人的交流

国内外の作家に1～2ヶ月間「ガラスの里」に滞在してもらい、創作活動に専念できる環境を提供する事業。外部の作家とコミュニケーションすることで生まれる学生への教育効果、県内在住作家の技能向上、市民への啓発普及効果などが期待できる。事業の実施に必要な作家の滞在施設と制作スペースについては前頁の宿舎や新工房を活用する。

* ブランド

本来は「銘柄」、「商標」の意味。一般的にはより深く「銘柄の個性」、「他の銘柄との差別性」を指す。したがって、本プラン中で述べる「ブランド展開」、「ブランド戦略」といった用語は、それが登場する前後の文脈から「銘柄の個性を際立たせるための商品展開」、「他の銘柄との差別化を図るためのイメージ戦略」などの意味になる。

ガラスの里



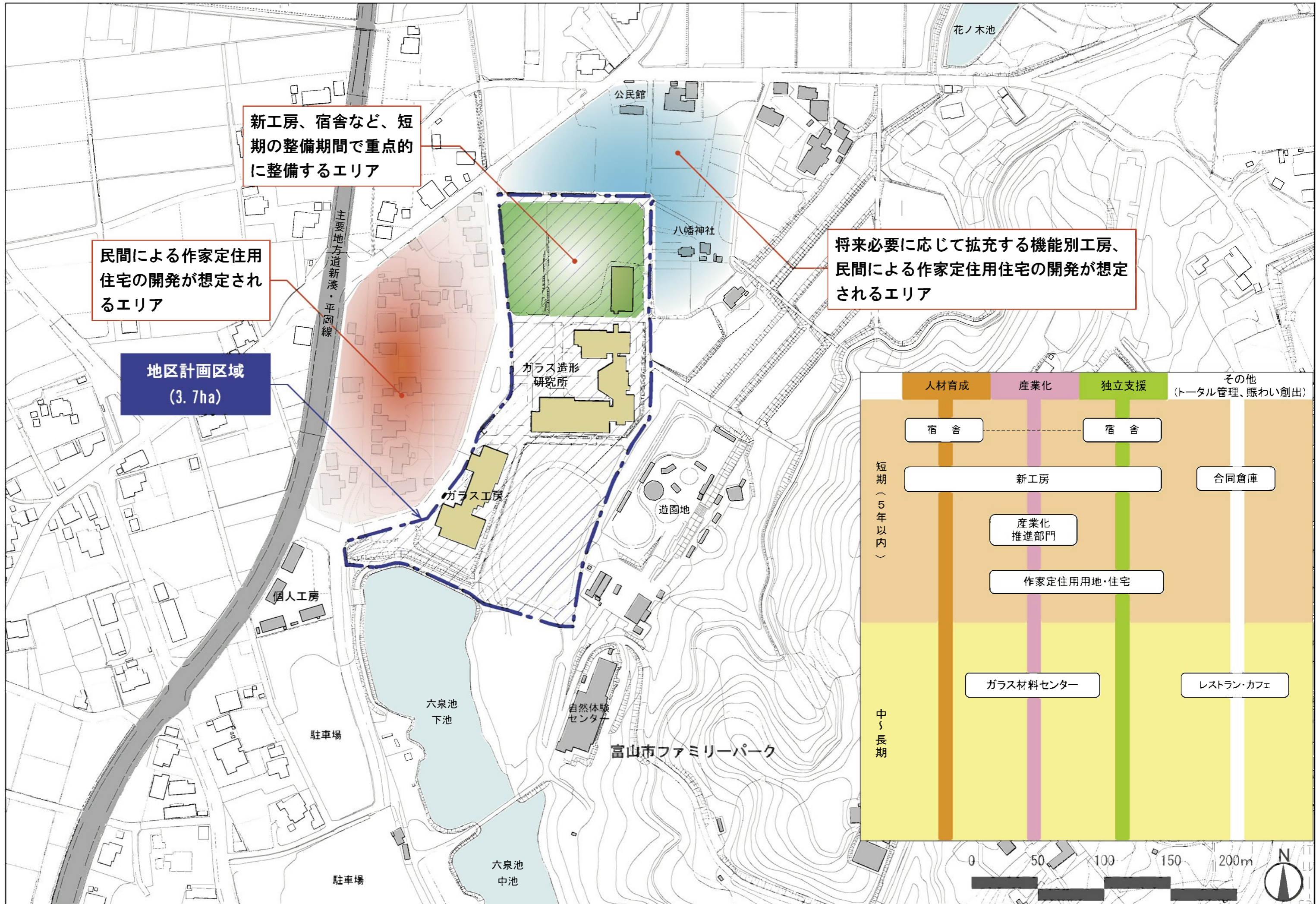
4 整備計画

(1) 整備期間

前項で述べた施設及び組織については、平成21年度を起点として、それぞれ整備期間を短期と中期～長期に分け、「ガラスの里」の地区計画の進捗状況に合わせて段階的に整備することが望ましい。

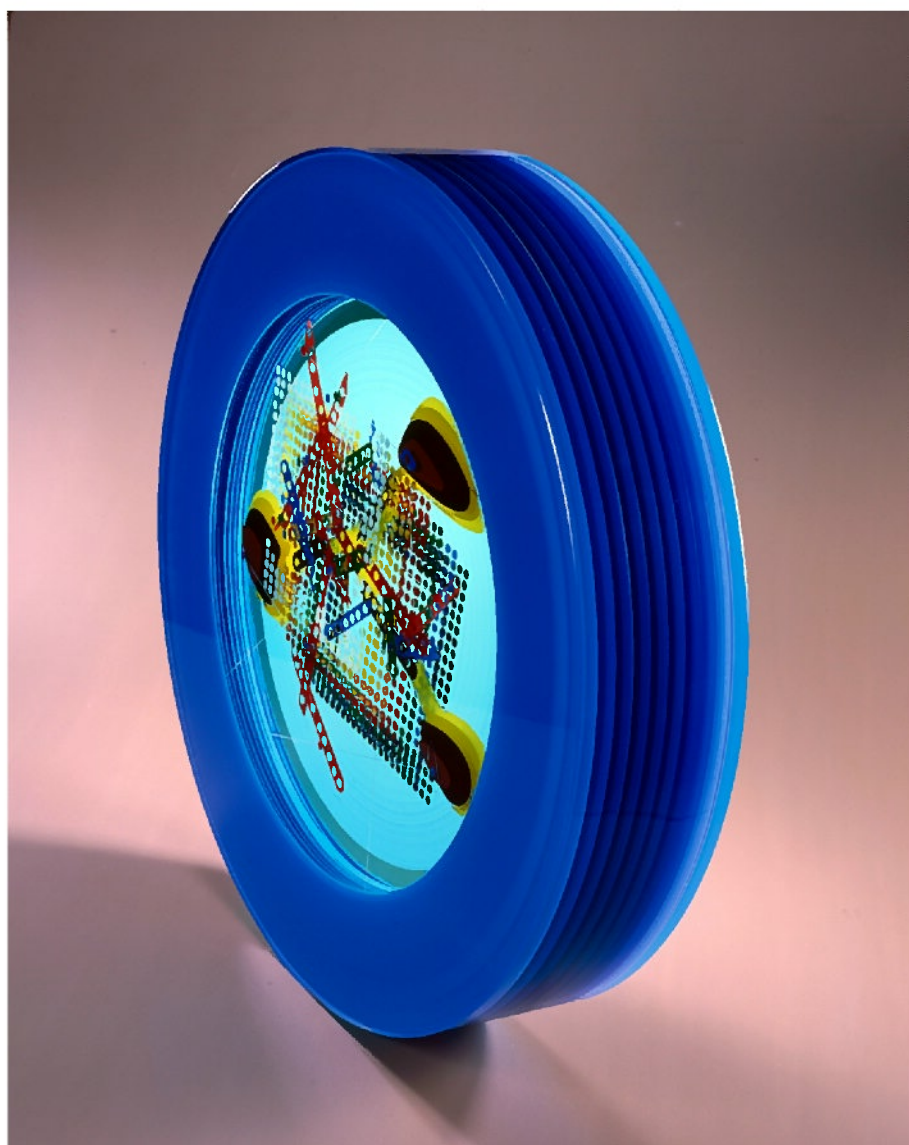
施設・組織名	整備期間
宿 舎	短期 (5年以内)
新工房	
合同倉庫	
作家定住用用地・住宅	
産業化推進部門	
ガラス材料センター	中～長期
レストラン・カフェ	

(2) 整備イメージ



	人材育成	産業化	独立支援	その他 (トータル管理、賑わい創出)
短期 (5年以内)	宿舎		宿舎	
		新工房		合同倉庫
		産業化 推進部門		
		作家定住用地・住宅		
中〜長期		ガラス材料センター		レストラン・カフェ

Ⅲ ガラス美術館の 整備推進について



Ⅲ ガラス美術館の整備推進について

1 基本的役割

ガラス美術館は、「ガラスの街とやま」をテーマに新しい地域文化を醸成しようとする富山市の構想の中核をなす施設である。

その役割は、新しい地域文化を市民や富山の作家と共に創造するため、ガラス芸術を大きなテーマとして掲げ、古沢・西金屋地内にある「ガラスの里」と一体となって国際的なガラス芸術の拠点としての地位を確立し、芸術・文化の発展・普及を促し、豊かな地域社会の形成に寄与することである。

2 基本方針

(1) 現代ガラス芸術を主体とした美術館

現代ガラス^{*}芸術を主体に、その芸術性、革新性に迫り、次世代のガラス芸術の方向を模索していくことで、美術館としての独自性を確立する。

(2) 人や情報の交流拠点となる美術館

ガラス芸術に関する調査研究及び普及活動を柱に据えながら、国内外の作家や美術館、市民との交流を積極的に推進することで、国際的な交流拠点としての地位を確立する。

(3) 研究・創作の学術的支援を行なう美術館

日本及び世界のガラス関係者の研究や創作を学術面から支援し、積極的にガラス芸術の発展に寄与する。

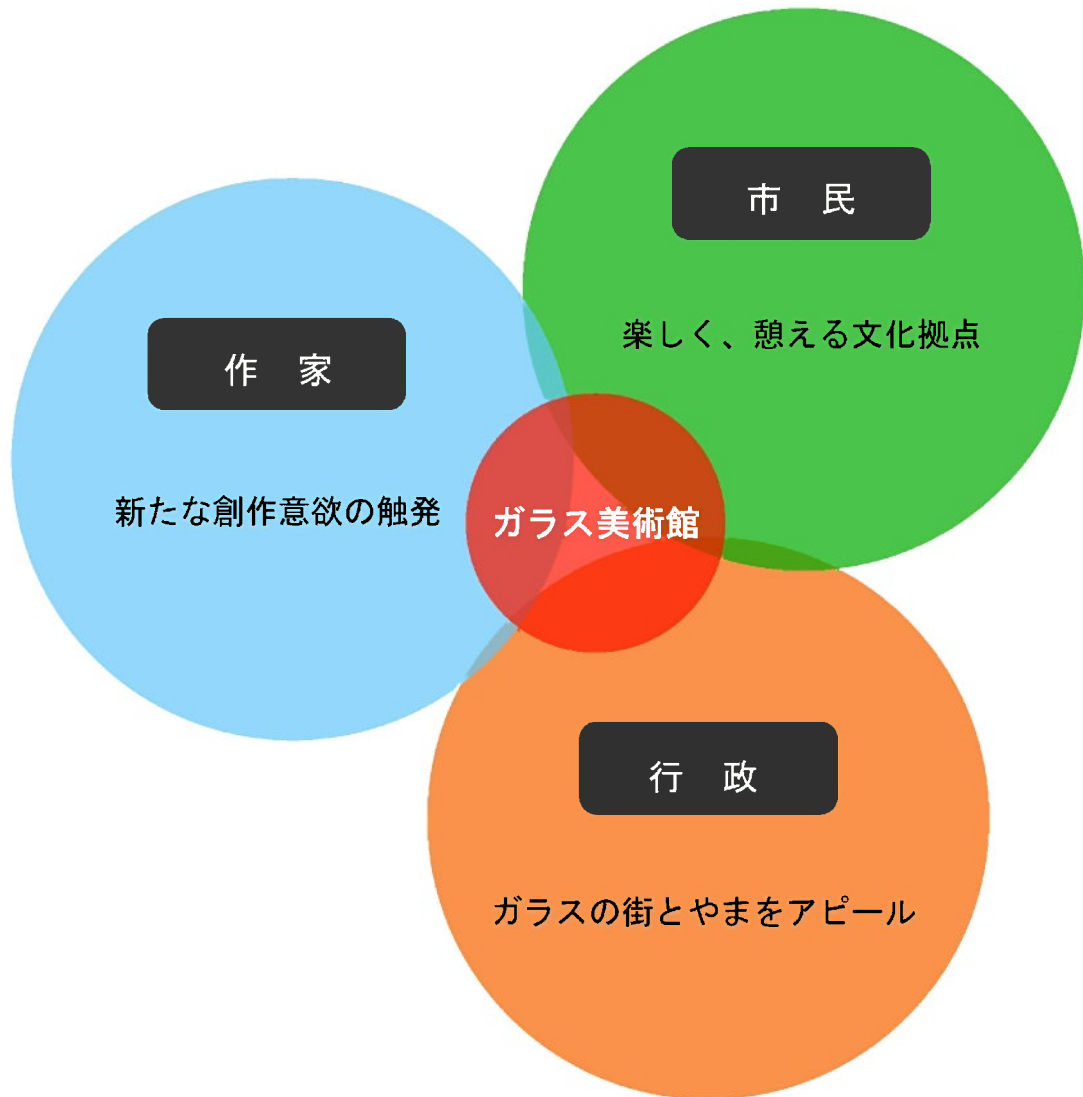
(4) 市民文化の拠点となる美術館

「ガラスの街とやま」の中核施設として「ガラスの里」や他の諸施設と緊密な連携を図りながら、展覧会、実技講座、講演会など様々な機会を市民に提供することで、市民が学び、親しみ、楽しみ、憩う場ともなる、開かれた文化拠点を目指す。

* 現代ガラス

1960年代以降に制作された、個人もしくは少数のグループによる自由で独創的な創作ガラスの総称。ただし、美術史において「現代」という用語が規定する年代区分は非常に曖昧であり、1960年代以降というのもひとつの目安に過ぎない。また、逆説的ではあるが、“自由で独創的な”作品であるがゆえに、特定の様式や技法による定義も存在しない。

美術館のコンセプト



3 活動内容

(1) 作品及び資料の収集・保管

ア 収集方針

- (ア) 現代ガラス芸術発展の流れに沿った国内外のすぐれた作品
- (イ) 現代ガラス芸術に影響を与えた、歴史的に資料価値の高い作品
- (ウ) 次世代のガラス芸術の方向を予見させる革新的で質の高い作品
- (エ) ガラス芸術以外の造形分野で、特にすぐれており、ガラス芸術の発展の参考となりうる作品
- (オ) その他、美術館が収蔵するのにふさわしい図書・資料等

イ 収集方法

- (ア) 作品及び資料の収集は、購入及び寄贈、寄託^{*1}による。
- (イ) 作品及び資料の収集は、調査や研究に基づき計画的に進める。
- (ウ) 作品の選定は、選定機関の審議を経て行なう。

(2) 展示

ア 常設展示

館の方針に沿ったテーマに基づいて構成される作品を常時展示を行なう。

イ 企画展示

現代ガラス芸術をテーマとした特別展示や巡回展示を行なうと同時に、現代工芸をはじめとする他の造形分野も取り入れた多角的な展示を行なう。

ウ 館外展示活動

他地域や他施設への貸出しや出張展示^{*2}、ストリートミュージアムを活用したまちなかへの展示を行なう。

(3) 教育・普及

- ア ガラス文化への理解を深めるための講演会等の開催
- イ ガラス加工技術に関する市民や子ども向けの実技講座の開催
- ウ 視聴覚機器、情報機器などの情報メディアの積極的活用
- エ 情報ソフトの収集・制作と活用
- オ 美術館活動の紹介やガラス文化の普及を図るための出版物の刊行
- カ 美術図書・資料等の公開
- キ 学校教育との連携による教育プログラムの実施
- ク ガラス関連施設や中心市街地の諸施設との連携によるガラス文化の普及

*1 寄託

作品や資料を美術館に預け、その管理や運用を任せること。

*2 出張展示

美術館の収蔵作品・資料などを館外に持ち出して展示すること。通常は企業や学校など、美術館やギャラリー以外の団体と連携して実施するため、展示場所は体育館やオフィスのホールなどを利用する場合が多い。

(4) 調査・研究

- ア 収蔵作品に関する調査・研究
- イ 国内外の現代ガラス作家及び作品に関する調査・研究
- ウ ガラス芸術に関連する造形分野及びその歴史的経緯等に関する調査・研究
- エ その他必要な調査・研究

(5) 交流活動等

- ア 作家・研究者・他の美術館などとの幅広いネットワークの構築
- イ 研究や創作を行う人たちへの学術面からの支援
- ウ 各種実技講座や講演会等の開催を通じた市民と作家との交流の場の提供
- エ 中心市街地での多彩なイベントへの参加による賑わいの創出

4 設置場所

富山市の主要施策である<コンパクトなまちづくり>や<中心市街地の活性化>を考慮し、より多くの市民に親しまれる美術館を目指すという観点から、中心市街地での整備を念頭に置く。

5 設計コンセプト

(1) 現代ガラス芸術の館に相応しい外観や内部空間の創出

- ア 自然光をふんだんに取り入れた「明」の部分と、照明効果を最大限に生かした「暗」の部分の創出し、両者の光の効果による違いが際立つような工夫を施す。
- イ 周辺の景観との調和に配慮しつつも、既存の建築概念に囚われない、大胆な建築資材や空間構成を施すことで、ガラス芸術の専門美術館としての独自性を内外に強く印象づける。
- ウ 建築にはすぐれた設計者の選択にも留意する。

(2) 子供・高齢者・障害者などへの配慮

(3) 美術品に対する防災・防犯機能への配慮

(4) 美術品の収蔵や運搬が円滑に行なえる動線の確保

※ 複合ビル内での整備の場合、特に次のような点に留意する。

- 1 ガラス美術館の個性が複合ビルのデザインの中に埋没しないよう、ファサード^{*}の向きや印象に十分配慮する。
- 2 ガラス美術館までのスムーズな動線を考慮し、複合ビルの内外に十分なサイン（広告）スペースを確保する。
- 3 美術品専用輸送車が入り出できる美術館専用の搬入口と、そこから収蔵庫へ至る直結ルートの確保に特に留意する。

* ファサード

建築用語で、「建物の正面外観」の意味。一般的に、交通量の多い通りなどに面した、いわゆる“建物の顔”に相当する部分を指す。

6 施設内容・機能等

(1) 展示室

光を透過するガラス作品の特性を考慮し、照明による視覚効果を最大限生かせるよう、十分な照明設備を整備する。

ア 常設展示室

現代ガラス芸術の専門館としての個性を内外にアピールするための中核展示室として、市の収蔵作品を中心に、国内外のすぐれたガラス芸術を紹介する。

また別室として、生前富山にゆかりのあった藤田喬平^{*}氏の作品展示室と、富山のガラス作家の作品展示室を設ける。

イ 企画展示室

現代ガラス芸術を中心に、様々なテーマの企画展を開催する。機能として、企画展の種類や規模に応じて展示室のスペースを自由に構成できる柔軟性を備えている必要がある。

また、壁面仕様や天井高については、現代ガラス芸術以外の作品展示にも対応可能な設計とする。

(2) 普及・サービススペース

多くの来館者が集う憩いの場を想定し、入館料を徴収しない無料空間として整備する。誰もが気軽に利用できる空間に、小ホールやミュージアムショップ、情報ライブラリー、ガラス芸術の歴史を紹介するコーナー、実技講座室などの機能を集積させることで、中心市街地における新たな賑わい空間を創出する。

ア 小ホール、市民ギャラリー

美術館、市民団体、民間企業などが企画する様々な講演会等に活用できる小ホールや、市民に貸し出すギャラリーを設ける。

※ 複合ビル内での整備の場合、小ホールに類する施設は複合ビルの共有施設として整備される可能性がある。この場合、美術館単独でのホールは整備しない。

イ 実技講座室

ガラス技法や美術全般に関する様々な実技講座を開催するためのスペース。多彩な内容を想定し、水場やガスバーナー取付口を備える。

* 藤田喬平（1921-2004）

戦後の日本ガラス界を代表する作家。日本の伝統的な美意識を独自の感性によって蘇らせた『飾篋』シリーズや、イタリアのムラノ島で30年近くにわたり制作し続けた『ヴェニス』シリーズにより、国際的なガラス作家としての地位を確立した。1997年に紺綬褒章、2002年に文化勲章を受章。富山ガラス造形研究所初代顧問。

ウ エントランス・ロビー

ガラス関連以外の書籍も配備し、映像閲覧機能を付加した複合ライブラリー、ガラス芸術の歴史を紹介するコーナー、美術館関連グッズや地元ガラス作家のオリジナル商品を販売するミュージアムショップを設ける。

ショップは「ガラスの里」が供給する多種多様なガラス商品の販売が見込まれることから、比較的大規模なスペースでの展開が望ましい。

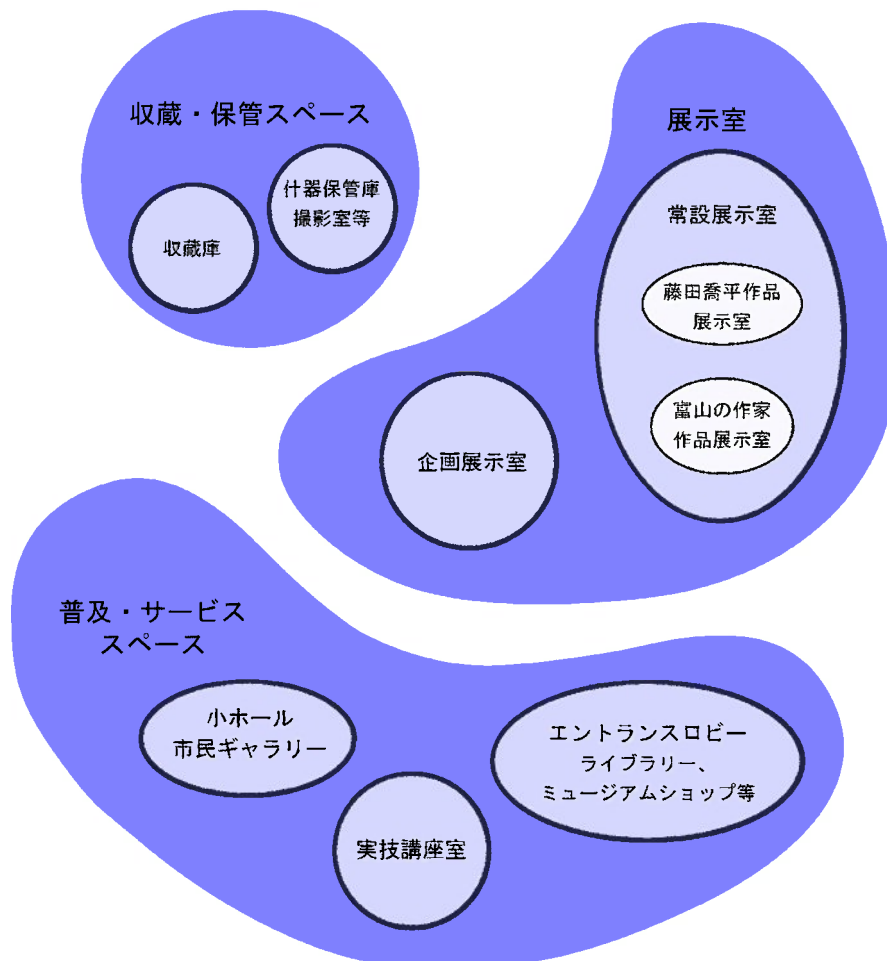
(3) 収蔵・保管スペース

作品及び資料の収蔵・保管は、美術館活動の基礎となる重要な機能であるため、十分な面積と設備を確保する。

設備としては、市収蔵ガラス作品用の一次収蔵庫以外に、企画展の借用作品や梱包資材を保管するための二次収蔵庫、展示用の什器を収納する什器保管庫、撮影室、資料研究室、補修室などを整備する。

(4) 事務スペース

事務スペースの仕様や面積は、ガラス美術館の組織体制や事業内容によるが、事務職、学芸員合わせて10名程度を想定し、館長室、応接室、事務室、学芸員室、会議室、美術館ボランティア・スタッフ控室などを整備する。



IV ストリートミュージアム の整備推進について



IV ストリートミュージアムの整備推進について

1 経緯と現状

富山市は、平成8年に「ガラスの街角づくり事業」をスタートさせたのを皮切りに、ストリートミュージアムでの積極的なガラス作品の活用を図ってきた。

ストリートミュージアムの主要展示設備であるエキシビション・ショーケースは、富山駅から大手モールに至るルート上に、平成21年3月末までに屋外型15基、屋内型8基を整備している。

また、ストリートミュージアムの中核施設として、平成17年に富山市民プラザ内に「トヤマガラスアートギャラリー」をオープンさせ、年数回のテーマ展を通して、市の収蔵作品を無料で市民に公開している。

平成8年10月	[ガラスの街角づくり事業]スタート(ミニケースギャラリー/現在10ヶ所30基)
平成9年11月	[ビューティーロード事業]として駅前から市役所までの県庁線歩道にスタンド・ガラス仕様のプレートを設置(現在13ヶ所)
平成14年11月	ガラス美術館建設延期に伴い、街全体を美術館に見立てた新たな展開方針を検討。中心市街地を含めたまちなかへの作品展示に着手
平成15年9月	市内ガラスの里推進委員会にてガラス美術館ストリートミュージアム構想実施プランについて具体的に検討
平成16年4月	市所蔵の大型ガラス作品を富山国際会議場や佐藤記念美術館ロビーに設置
平成16年8月	ガラス美術館・ストリートミュージアム構想事業の一つである「ワン・ガラス・イン・ウインドウ」事業を開始。総曲輪・中央通りを中心とした商店街の店舗に県内ガラス作家の作品を通年展示(2006年10月終了)
平成17年3月	ガラス美術館・ストリートミュージアム構想事業の一環として、屋外型ショーケースを大手モールに2基設置
平成17年3月	市の収蔵ガラス作品を常設展示する「トヤマガラスアートギャラリー」が富山市民プラザ内にオープン
平成18年2月	富山市役所北側などに新たに4基の屋外ショーケースを設置
平成19年2月	城址公園南側に新たに5基の屋外ショーケースを設置
平成20年3月	城址大通りに新たに2基の屋外ショーケースを設置
平成21年3月	城址大通りに新たに2基の屋外ショーケースを設置

2 整備方針

ストリートミュージアムについては、中心市街地の活性化や、景観づくりなどの施策との整合性を図りながら、ガラス美術館の開館後も継続的にガラス作品の展示エリアとして活用していく。

ただし、富山市民プラザ内にある「トヤマガラスアートギャラリー」については、新設するガラス美術館と機能が重複することから、美術館開館後は他の用途に転用する方向で検討する。



V 組織・運営について



V 組織・運営について

1 運営

(1) 運営方法

ガラスの街づくりを効率的かつ効果的に推進するためには、「ガラスの里」、「ガラス美術館」、「ストリートミュージアム」の各施設等の相互連携が不可欠であり、それらの一体的な運営が望ましい。

(2) 運営主体

一体的な運営主体としては、(財)富山市ガラス工芸センター(現ガラス工房の指定管理者)を母体とし、次のような組織・機能とすることが考えられる。

- ア 産業化推進部門…ブランド化戦略、マーケティング戦略、作家育成支援など高度な専門性を要する
- イ 美術館運営部門…ソフト事業(企画・展示等)、収蔵美術品選定業務など高度な専門性を要する
- ウ 施設管理部門…施設の維持管理

2 産業化の推進

産業化推進部門では、富山のガラスのブランド力向上と販売促進、作家支援などを行なうことで、国内だけでなく世界に向けたビジネスチャンスの開拓を目指す。

(1) ブランド化戦略

すぐれた芸術作品の制作はもとより、新製品開発、高付加価値商品の製作等により、富山のガラスブランドを構築し、国内外に積極的にアピールしていく。

(2) マーケティング戦略

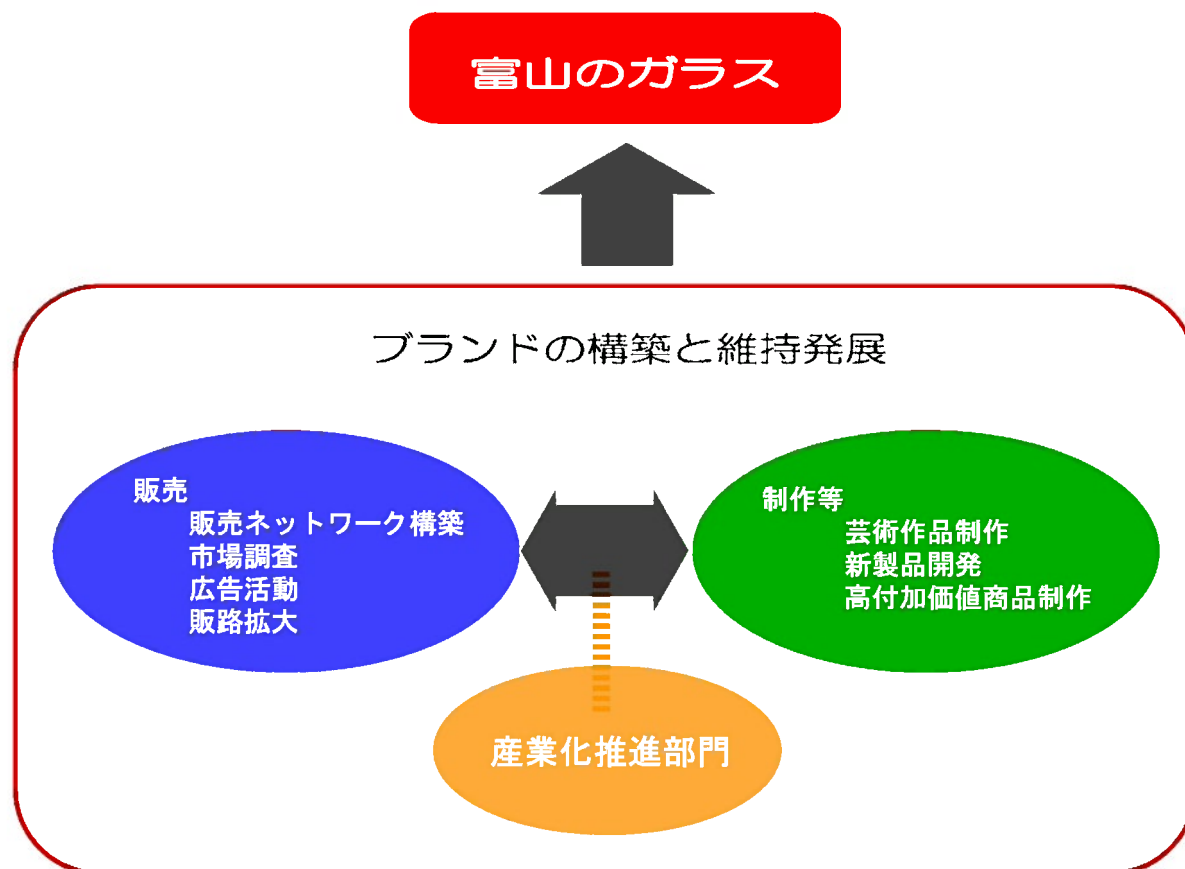
ショップや個人工房、民間ギャラリー等の相互連携など総合的な販売促進のための仕組みづくり(販売ネットワークの構築)や、市場への働きかけ等(市場調査、広告活動、販路拡大)を行ない、ブランド力を強化する。

(3) 作家育成支援

販売、制作、経営などの様々な観点から富山のガラスブランドを支える作家を支援することで、作家の定着を促し、生産力・品質の向上等を図る。

(4) 専門性の確保

前記のような産業化を着実に推進するため、必要に応じて専門マネージャーの確保や専門業界への業務委託を検討する。



おわりに

今回策定する「富山市ガラスの街づくりプラン」の理念を端的に表すならば、“富山市ならではの新しい文化の醸成と定着”といえる。このプランを着実に実施していくことで、自然豊かなこの都市に新たな潤いが生まれ、私たちの暮らしがより豊かになるものと考えている。

「富山市ガラスの街づくりプラン」

平成21年3月

発行 富山市企画管理部企画調整課
〒930-8510 富山県富山市新桜町7番38号
TEL 076-443-2010